



津山市地域おこし協力隊 柳生 光昭さん（阿波）

真庭市出身。高校卒業後、東京に進学し就職。13年間勤務の後、赤磐市のテーマパークに就職。施設内で働く赤磐市の地域おこし協力隊員に会い、協力隊活動に魅力を感じる。令和3年（2021）4月から津山市地域おこし協力隊に就任。40歳。

40歳で協力隊に就任

「10代で進学のため上京し、20代でIT企業に就職。充実した都会生活だったが、30代になると都会への魅力が薄れ、息苦しさを感じ始めた。やりたいことが見つからず、自分がどう行動すればよいか分からなかった。40歳になり、物事を進める手順や知識が身に付き、やっと確信を持って行動できるようにになった」。そう語るのは、柳生光昭さん。4月から津山市地域おこし協力隊として、阿波出張所を拠点に活動しています。主な任務は阿波地域の魅力づくりです。「前職は、赤磐市のテーマパークで企画広報を担当していた。施設を知ってもらうための活動や、イベント開催を約4年間手掛け、お客さんの心理をつかむコツを学ぶことができた。この経験を生かし、阿波地域の魅力発信に努めたい」と目を輝かせます。

阿波地域に感じた強い魅力

「水がきれいで自然の恵みを得やすい。寒暖差もあるので、地域特有の気候を生かした農産物がないかを模索している」と阿波地域の魅力を語ります。「就任前、初めて阿波地域を訪れたのは今年の1月。協力隊を募集する県内の多

くの地域を見てきた中で、阿波地域の雪と溪流に、強い魅力を感じた。雪が多く、冬の期間は活動に支障があるかもしれない。これまでに困難な状況でも、自分の努力や周囲の助けを得て、新たなヒントを見つけながら、克服する経験をしてきた。阿波地域でも皆さんと協力し、地域ブランド化できそうな素材を発掘したい」と抱負を語ります。

持続可能な地域づくりを実践

「今ある地域の農林水産物に新しい魅力を加え、販売先を少しでも広げるため、阿波地域を知り、地域の人とつながる行動を続けた。最近では、地域の養魚場にいるニジマスとアマゴを使って、鮭とほのような燻製を試作した。地域の文化や風土を調べる途中でもあり、味はまだ試行段階。将来的には、レシピアや工程表を作り、地域の皆さんと取り組みたい。

今後は、清流で育った山菜や野菜の販売促進、既存商品をさらに良いものに仕上げたい。阿波地域が魅力ある持続可能な地域として広く知られ、訪れる人が増えるなど、地域の皆さんに少しでも貢献できるとうれし」と決意を語りました。



運動不足解消のため、ボクサーサイズを始めました。といっても、ジムに通うのではなく、テレビゲームを利用した自宅トレーニングです。ゲームとはいえず、背中や二の腕はしっかり筋肉痛になり、効果を実感。飽きっぽいわたしですが、汗をかくのがだんだん楽しくなってきたので、長く続けていきたいです。

食品ロスを生んでしまう買い物などでの行動。「つ」「ちゅ」と「で」買い過ぎたり、同じものがたまっていたり、自分にも当てはまるものがありました。今回の取材を機会に普段の行動を見直し、自分なりにできることから始めてみようと思います。まずは、心躍る特売コーナーとのにらめっこからかな。

15ページ「乗って残そう、公共交通」の記事を見て、大学生の時、北海道で廃止直前の鉄道に乗ったことを思い出しました。数年後、再び同じ場所に行くと、人の動きが減り、町の活気が失われた様子を目の当たりにしました。鉄道に乗ることが好きなので、乗って残す、乗って楽しむ時間を増やしたいです。

☎ 0868-32-2029
☎ 0868-32-2152
✉ kouhou@city.tsuyama.jp

広報津山は、環境保護のため再生紙・植物性インキを使用しています。読み終わった後は「リサイクル」(雑誌)にご協力ください。



津山市公式
フェイスブック



津山市公式
LINE



津山市公式
インスタグラム

